

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2020年3月以降、全国の学校で休校措置がとられ、通常授業に大きな影響が及んだ。その中で、休校の影響を最小限に抑えようと、多くの学校でオンライン授業の導入が図られた。本稿では、緊急事態の中で模索されたオンライン授業の事例をレポートする。

全授業をオンラインで実施  
— 麴町学園女子中・高

最初は、東京・千代田区にある麴町学園女子中学校高等学校の事例だ。同校では以前からICTを積極的に採り入れており、休校措置に伴い、授業をオンラインで行うようにした。花形映里・進路指導部長は語る。

「本校は、電車通学をする生徒が多いため、登下校時の感染リスクを避けるためにも生徒の登校を制限せざるを得ませんが、オンライン授業によって、学びを止めることなく進めることができました。朝8時30分の朝礼に始まり、14時30分の終礼まで時間割に沿って行うことができ

オンライン授業で「ミニミニ  
— 麗澤瑞浪中・高

次は、より密度の濃いオンライン教育の実施が模索されている。麗澤瑞浪中・高等学校のある麗澤瑞浪中・高等学校の事例は、岐阜・瑞浪市にある麗澤瑞浪中・高等学校の事例だ。同校は、生徒の多くが寮生活をし、仲間と共に学ぶ寮教育を特色のひとつとしているが、新型コロナウイルス流行による休校に伴い、5月からオンラインによる自宅での学習活動を実施している。

1日5時間の授業とその前後のショートホームルームを実施、質問の時間も設けている。教員の講義のほか、グループ活動やペア活動も採り入れている。また、小テストや学習時間の確認、教材提供、課題提出なども行う。英語科では音読アプリを導入し、生徒が自分の音読を録音して教員に提出することもできるようにした。原田歩・英語科主任が言う。

「3月の休校以来、生徒とのコミュニケーションがとりづら

【問い合わせ先】

たので、生徒たちが生活リズムを乱すことは少なかったと思います。また、担任がオンラインで面談を行い、不安な気持ちを抱えている生徒のケアや受験指導なども行いました。ただし、授業を受けられない生徒がいた場合に備えて授業を録音しておくことや、授業後に生徒の状況を確認をするといった必要がありました。また、一日中画面を見続けることや音声を注意深く聴くことなど、生徒にはかなりの疲労感があることも伝わってきていました」

「考えて書く力」を伸ばす  
授業をオンラインで

同校では、「書く力」の養成を目的として、2020年度から学研プライムゼミ「AO・推薦ゼミ小論文ベシック講座」の高2・3生への導入を予定していた。

「読書離れやスマホの普及とともに文章による表現力の低下が顕著です。「書く力」を養うには、中高6年間の積み重ねによる習慣化が必要であると考え

ました。そこで、月に一度全校で同じ目標に向けてストーリーを持たせて計画的に進め、徐々に段階を上げながら「考えて書く力」を伸ばし、思考力・表現力を身につけさせる時間を設けました。その積み重ねが、大学入試における小論文や志望理由書への対応だけでなく、社会に出てからも活躍できる人材へと成長できる基礎力になるという考えからです。その一環として、中1・高1で身につけた基礎を踏まえて高2・3に「AO・推薦ゼミ」に取り組みさせることにしました」

当初は、ロングホームルームなどの授業時間に映像を視聴し、小論文の添削を受ける計画だったが、休校に伴うオンライン授業の実施を受け、生徒は各自自宅で視聴した。各担任の指示で時間を決めて同時に講義を視聴し、実施した用紙をiPadで写真に撮り、担任に提出することで終了時間の設定が可能となり、実施の確認をした。

「小論文ベシック講座」の導入に当たっては、同校では小



職員会議もオンラインで開かれた。

くなっていました。5月からのオンライン授業で、久しぶりに教員と生徒がお互いの顔を見てコミュニケーションできたのは大きなメリットです。授業ではグループワークやペアワークもできているので、通常の学校生活に近い感覚で授業に参加できると、生徒からも好評でした。

音読アプリでは、生徒一人ひとりの音読を確認でき、複数人の授業ではできなかった個々の対応ができています。

一方で、生徒一人ひとりの様子を見ながら授業を進めることが難しく、一方通行になりがちで普段通りのコミュニケーションがとれないといった課題を感じています」

英会話力を伸ばすために

同校では、グローバル化が進む社会に生徒たちが適応できるよう、世界で活躍する日本人の育成を目指してきた。英語教育では4技能の向上を目指し、さまざまな取り組みをしている。中1生に対して教科書を1年間で4、5回繰り返して学ぶ5ラ

ウンドシステムはそのひとつで、音→意味→文字と、段階的に情報を取り入れさせるようにしている。また、数年前から中高生の希望者にオンライン英会話を導入、実施している。

「もともと交換留学から帰国した生徒に英会話力を維持できる機会を提供するのがねらいでした。その後、大学入試に4技能型英語民間試験が導入されることになったためにスピーキング力を向上させたいという目的で受講する生徒が増えました。結局民間試験導入は見送られましたが、本校では依然としてオンライン英会話を希望する生徒は多いです。現在は、学研のオンライン英会話を採用していま

す。意見を論理的に述べる「ロジカルスピーキング」が他に例を見ないものであり、入試用の英作文指導としても適していることがその理由です」



麗澤瑞浪中・高等学校でのオンライン英会話の通常授業の様子。



オンラインによる英語の授業。

(株)学研プラス 英語教育事業室 / 西日本文芸営業室 03 (6431) 1573 global-english@gakken.co.jp